

■開催条件

□参加条件

●開催する都道府県の方針により、移動を制限されている、国や地域の居住者には参加を見合わせてもらう。

※上記資格に該当しないことが発覚した場合、またはエントリー後に状況の変化によって参加条件に該当しなくなった場合はエントリーを無効とし、**返金手数料を差し引いた全額を返金する。**

※返金の方法、内容については主催者が定めるものとする。

□開催条件

●**鳥取県、並びに大山町において緊急事態宣言およびイベント自粛等の要請が発せられていないこと、もしくは開催当日までに解除が明らかであること。**

●大会当日に上記宣言、要請が発せられていないこと。

■中止時の対応

□中止判断とエントリー費の取り扱いについて

●中止判断の基準と参加費の扱いは以下の通りとする。

①エントリー締切日までに緊急事態宣言およびイベント自粛等の要請が発せられており、解除の見込みがない場合

→エントリー費から返金手数料と開催準備にかかった費用を除いた、全額を返金。

②エントリー締め切り翌日～8月21日までに情勢の変化によって開催条件を満たさない場合

→参加費の返金ができないが、参加賞、ならびにプログラムの郵送を行う。
エントリー時に購入済みのオプション商品も郵送にて対応。

※なお返金の方法、内容については主催者が定めるものとする。

■事前対策①

□参加者への協力依頼

- スタッフのマスク着用へのご理解。
- こまめな手洗い、消毒のお願い。
- 他の参加者、スタッフとの距離の確保。（できるだけ2m以上）
- 大きな声で会話、応援、ハイタッチを行わない。
- マスク等の口を覆うものを持参し、走行中以外の着用をお願い。
- 体調不良の際の参加見合わせ。（37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛、倦怠感、嗅覚・味覚異常など）
 - 大会前2週間において新型コロナウイルス感染症陽性と判断された方との濃厚接触がある場合の参加見合わせ。
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる者がいる場合の参加見合わせ。
 - 大会開催日から遡って過去2週間以内に感染拡大している地域（特別警戒都道府県）や国への訪問歴がある方の参加見合わせ。
 - イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する。
 - 誓約書を事前にダウンロードし、記入したものを当日受付で提出する。（会場の混雑を避けるため自宅で記載したものを持参）
 - その他、主催者の定める感染症対策の遵守と、状況に応じた指示に従う。

■事前対策②

□参加者への事前告知

- 参加者への協力依頼内容を事前に公式サイトなどで事前告知を行い、周知徹底を図る。
- 事前に誓約書を公開し、大会参加に伴う誓約項目に同意を得る。誓約書は各自ダウンロードし、記入したものを当日の受付時に預かる。（公式サイトにダウンロードリンクあり）
- 選手証は大会の詳細とゼッケン番号を記載したものをメールで送る。

■当日対策①

□受付時の対策

- 受付窓口は屋外に設置する。
- 受付スタッフの**マスクの着用**。
- 並ぶ際に参加者が一定の距離を取れるよう、**目印としてカラーコーンとPOPの設置**。
- 必携品のチェック時は一定の距離をとって行う。
- 受付では事前に送られてきた**メール画面の提示**と、**誓約書の提出**を求める。

□会場での対策

- 消毒液を複数箇所に設置。
- 感染症予防の手洗い・エチケットの励行POPの掲示。
- 更衣室は設置しない**。（参加者各自の車での着替えの協力）
- 開会式・ブリーフィングは集まらず、距離をとって簡素化した内容で行う。（必要最低限のルールなどの共有）
- ゴミ箱は設置しない**。（各自で持ち帰るよう協力を依頼）

■当日対策②

□エイドでの対策

- エイドスタッフの**マスクと手袋の着用**。
- 給水はマイカップ、ボトルに**スタッフが注ぐものとする**。（紙コップは設置しない）
- 補給食はジェル、エナジーバー、塩分タブレット、個包装のパン・チョコなどのものもしくは、個別に小皿に取り分けたもので提供する。
- エイドもゴミ箱は設置しない。（各自持ち帰り）
- 体調不良者は早めのリタイア**を促す。

□救護体制

- スーパー・マーシャルをコース上に配置し、無線を使用した連絡体制を構築。

□雨天時の対応

- 雨天時に参加者を屋内、テント内などで収容できる十分なスペースの確保が難しいため、参加者各自のレインウェア（上下）の持参に協力いただく。

■当日対策③

□コース上での対策

●競技中の位置取りは、林道や道路などで他の競技者との間隔が確保できる場面では、前の人呼気の影響を避けるため、**並走やあるいは斜め後方に位置取することを推奨する。**

●走っていない区間も含め、可能な範囲で周囲の人と距離を開けること。また、登坂中のランニングなど心拍数が高いときは、呼気が激しくなるため距離を空ける配慮を求める。

※感染予防の観点からはできるだけ**2m（最低1m）の距離を開けることを推奨する。**

●登山者とすれ違う際には、挨拶等の発声は控え、マスクまたはヘッドウェアなどで顔を覆う工夫などの配慮を促す。

□洗面所・およびトイレの対応

●トイレ内の複数の参加者が触れると想定される、ドアノブ、水洗レバー等についてはこまめに消毒する。

●蓋があるトイレでは閉めて汚物を流すようPOPを掲示。

■当日対策④

□スタート時の対応

- スタート直前まで選手の進行方向に対してできるだけ2m（最低1m）空けて整列させる。
- 参加者にはスタート直前までマスクの着用の協力を仰ぎ、大声での会話は自粛してもらう。
- スタートはウェーブスタートを実施、ナンバーの若い順に50名ずつ、5分ごとにスタートする。

□フィニッシュ後の対策

- フィニッシュ後計測チップは各自で指定の回収BOXに入れてもらう。**
- 表彰式は対象の選手が揃った時点で開始する。
- 記録証は印刷完了後、会場で渡す。（順番にスタッフが呼び出して対応）
- フィニッシュ後は直ちにマスクを着用するよう協力を促す。
- 各自帰り支度が済み次第、帰宅を促す。
- フィニッシュテープは用意しない。